

# 水無瀬神宮（水無瀬離宮）

水無瀬神宮は、後鳥羽上皇がたびたび行幸したという水無瀬離宮の跡地に建てられたご神宮です。1221年後鳥羽上皇は北条義時打倒の兵乱を起し（承久の乱）隠岐に流され、1239年2月22日配流地で崩御。翌1240年後鳥羽上皇の遺勅を託された藤原信成と親成親子が水無瀬の地に御影堂を建立して後鳥羽上皇を祀った。



いかにして契りおきけん白菊を

都忘れと名づくるもうし!!

順徳天皇は承久の変にて佐渡に遷されます。こよなく水無瀬の里を愛され殊の外菊花を好まれた父君後鳥羽上皇を偲び行在所に咲く可憐な野菊を「都忘れの菊」と命名し佐渡より移植されました。

都忘れの菊

順徳天皇は承久の変に佐渡に遷せられこよなく水無瀬の里を愛され殊の外菊花を好まれた父君後鳥羽上皇を偲び行在所に咲く可憐な野菊を「都忘れの菊」と命名し佐渡より移植しました。  
いかにして契りおきけん白菊と都忘れと名づくるもうし

水無瀬神宮の境内にあるご神水は

大阪府で唯一環境省選定の

**【全国名水百選】**です。

水汲み場には連日多くの方が取水にお訪れます。



## 水無瀬三吟

後鳥羽院の250回忌あたる1488年の正月忌日に水無瀬の後鳥羽院御影堂に奉納するために百韻連歌が興行されました。連歌のお手本とされている水無瀬三吟です。

水無瀬三吟は当代連歌師の第一人者の名声高い飯尾宗祇が高弟の肖柏と宗長の三吟で後の世に手本を示そうと巻いたものです。その初の折 表八句を紹介します。

(発句) 雪ながら山もとかすむ夕かな

(脇) 行く水とほく梅にほふ里

(第三) 川風に一むら柳春みえて

(四句) 舟さすおとはしるき明がた

(五句) 月は猶霧わたる夜にのこるらん

(六句) 霜おく野はら秋はくれけり

(七句) なく虫の心ともなく草かれて

(八句) 垣ねをとへばあらわなる道

(記：春風会員)